看　護　部　　　　　　　　　　　　　　　　看護部長　　鈴木　正代

平成２６年度　看護部目標

1.看護の質を高めるための取り組みを強化する

１）基本に則った個別的な看護の実践
（１）患者基礎情報からの問題点の明確化
（２）計画に基づく看護の実践記録
（３）患者カンファレンスの定着

２）患者の安全確保を優先した看護の実践
（１）インシデント事例の検証による再発防止
（２）転倒・転落アセスメントスコアシートの活用
（３）感染対策の維持強化

３）業務マニュアル等の整備
（１）看護手順・各種マニュアルの整備と活用
（２）各部署の業務手順の見直し

４）関連部門間の連携による業務改善（電子化を視野に入れ）
（１）医事算定に関連した文書類等の整備
（２）看護必要度の評価実績の維持

２.専門職としての自己研鑽を重ねる

１）院内・院外研修への積極的な研修
２）研究的視点での業務改善
（１）年度末に取り組み報告(発表)会の開催

３.病院経営へ積極的に参画する

１）病院の運営方針に基づいた経営目標を理解
２）病床管理を主導し一日平均患者数：１０４名を達成
３）患者・家族に満足していただけるサービスの提供

看護部事業計画(各看護単位目標)

看護単位	看護部の目標に基づく計画
外来	1. 看護の質の向上に努める 1）傾聴・温かみのある会話・相手を尊重した言葉遣い　2）明るく元気な外来　3）優しくて笑顔いっぱいの態度 4）患者さんの安全と安楽を確保 2. 医療過誤防止の強化を図る 1）確認の徹底を行う　2）看護手順の見直しと活用　3）ICTの指導に基づき正しく行動する 4）能率的効果的な業務の見直しを行う　5）インシデント発生時は速やかに再発防止対策を全員でカンファレンスする 3. 研修会への参加 1）自己研鑽を図る　2）専門知識と技術の向上を身につける　3）看護師の質の向上を図る 4. 病院運営に参画する 1）診療報酬改正情報の理解　2）診療体制の変革の理解　3）関連部門との連携を図る
手術室	1. 患者・家族が安心して手術が受けられる環境づくりと、看護の提供に努める 1）術前訪問で患者と面識を得る　2）麻酔パンフレットで説明を行い、手術の流れや麻酔について把握してもらう 3）術後訪問は70％訪問出来ているため80％にあげたい　4）手術室清掃マニュアルの見直し 2. 他病院の手術室の見学 1）当院手術室の質を高め、業務改善に活かす　2）院内・院外研修への参加 3. 手術に関する診療報酬点数を把握しコスト意識を高めコスト漏れをなくす
3階病棟	1. 看護の質を高めるための取り組みを強化する 1）基本に則った個別的な看護の実践　(1)患者基本情報からの問題点の明確化　(2)入院7日目に必ず看護評価を行う　(3)週5回患者カンファレンスを行い情報を共有する 2）患者の安全確保を優先した看護の実践　(1)インシデント事例を毎回カンファレンスにかけ解決策の検討を行う (2)入院時転倒・転落アセスメントスコアシート危険度Ⅱ以上の患者に対して入院後に行動の違いがある患者にはもれなくカンファレンスを行い情報を共有する　(3)処置ごとの手洗いを徹底し、感染予防に努める 3）業務マニュアル等の整備　(1)各種マニュアル・手順の見直し、委員会に協力し看護手順に沿ったケアの実施と活用ができる　(2)3階病棟として手順の見直しをし業務の整理をする 4）関連部門間の連携による業務改善(電子化を視野に入れ)　(1)書類等のデジタル化への積極的な協力を行う　(2)看護必要度にそった看護記録の徹底と記入漏れを防ぐ 2. 専門職としての自己研鑽を重ねる 1）院外研修に年1回は参加する　2）業務改善を行うことによる日常業務の変化を研究しレポートへまとめる 3. 病院経営は積極的に参画する 1）各人がコスト意識を持ち業務を行う　2）1日平均在院患者数；30から32名を目指す 3）人工関節置換患者様対象に満足度調査を行う(1か月約12名・期間7か月)
4階病棟	1. 看護の基本を理解し個別的な看護実践ができる 1）看護上の問題点を明確にするための情報収集ができる　(1)患者の状態変化に対応した計画と実践ができる　(2)委員会と連動し記録の勉強会を実施する　(3)患者カンファレンスの定着を図る 2）転倒・転落アセスメントシートの活用により転倒事例のアクシデントを発生させない 3）環境整備を強化し院内感染を防止する　4）看護手順等の整備を積極的に行い、マニュアルに準じた行動ができる　5）医療区分表、看護必要度の評価を確実に行う　6)他部門との情報交換の機会をもつ 2. 専門職としての自己研鑽を重ねる 1)各人が年間3回以上の研修会に参加し研鑽を重ねる　2)業務の見直しを積極的に行い成果としてまとめができる 3. 回復期リハビリテーション病棟への移行が順調にすすめられる 1)目標患者数の確保のための病床管理を行う　2)患者サービスの評価に繋がる指標を作成する 3)接遇研修への積極的参加と定期的なマナーチェック
5階病棟	1. 看護の質を高めるための取り組みを強化する 1）患者基礎情報の記入ができサマリー等が活用できる(問題の明確化)　2)患者の状態変化時は、受け持ち看護師が責任を持って計画の変更ができる　3)カンファレンスは受け持ち患者から行う 2. 患者の安全確保を優先した看護の実践　1）インシデント発生時は速やかにカンファレンスを行い意見交換し再発防止に努める　2)スコアシート、計画表を活用できる 3. 手指消毒と環境整備が確実に実施できる 1）エプロンを適切に使用できる　2)看護手順各種マニュアルの見直し整備をする 4. 共有の情報を毎日パソコンから情報収集する 5. 院内外の研修に参加する 6. 病院経営運営方針を積極的に知り参加する 1）5階患者数26名を目標とする　2)患者家族に満足していただけるようスタッフ間で意見交換しあう

平成26年度　看護部目標

外　来

看護部の目標	病棟の目標	評　価
1.　看護の質を高めるための取り組みを強化する 1）基本に則った個別的な看護の実践 (1)患者基礎情報からの問題点の明確化 (2)計画に基づく看護の実践記録 (3)患者カンファレンスの定着 2）患者の安全確保を優先した看護の実践 (1)インシデント事例の検証による再発防止 (2)転倒・転落事例の検証 (3)感染対策の維持強化 3）業務マニュアル等の整備 (1)看護手順・各種マニュアルの整備と活用 (2)各部署の業務手順の見直し 4）関連部門間の連携による業務改善(電子化を視野に) (1)医事算定に関連した文書類等の整備 (2)看護必要度の評価実績の維持	1.　看護の質の向上に努める 1）①　傾聴・温かみのある会話・相手を尊重した言葉遣い ②　明るく元気な外来 ③　優しくて笑顔いっぱいの態度 ④　患者さんの安全と安楽を確保する 2）医療過誤防止の強化を図る ①　確認の徹底を行う ②　看護手順の見直しと活用 ③　ICTの指導に基づき正しく行動する ④　能率的効果的な業務の見直しを行う ⑤　インシデント発生時は速やかに原因・対策・再発防止対策について全員でカンファレンスを行う	1.　看護の質の向上に努める 1）①　患者の話に耳を傾け笑顔で対応できている。 ④　患者さんの安全面で、診察終了後の待合室への誘導までは難しい。 2.　①、⑤　投薬等、カルテの二重チェックをしているがミスがみられる。再発防止のため月1回の外来カンファレンスで検討。 ③　感染疑い患者退室後・診療終了後の消毒も行えている。 ④　各外来でカルテの記載等の統一を図っている。
2.　専門職としての自己研鑽を重ねる 1）院内・院外研修への積極的な研修 2）研究的視点での業務改善 (1)年度末に取り組み報告(発表)会の開催	2.　研修会への参加 1）　自己研鑽を図る 2）　専門知識と技術の向上を身につける 3）　看護師の質の向上を図る	2.　パート勤務者が多く全員の参加は難しい。
3.　病院経営へ積極的に参画する 1）病院の運営方針に基づいた経営目標を理解 2）病床管理を主導し1日平均患者数：104名を達成 3）患者・家族に満足していただけるサービスの提供	3.　病院運営に参画する 1）　診療報酬改正情報の理解 2）　診療体制の変革の理解 3）　関連部門との連携を図る	3.　情報を得ているが全てを理解しているか？ 今後も情報を共有し理解に努める。 他部門と協力を密にし業務改善にも繋げサービスの向上に努めたい。

平成26年度　看護部目標

手術室

看護部の目標	病棟の目標	評　　価
1.　看護の質を高めるための取り組みを強化する 1）基本に則った個別的な看護の実践 (1)患者基礎情報からの問題点の明確化 (2)計画に基づく看護の実践記録 (3)患者カンファレンスの定着 2）患者の安全確保を優先した看護の実践 (1)インシデント事例の検証による再発防止 (2)転倒・転落事例の検証 (3)感染対策の維持強化 3）業務マニュアル等の整備 (1)看護手順・各種マニュアルの整備と活用 (2)各部署の業務手順の見直し 4）関連部門間の連携による業務改善(電子化を視野に) (1)医事算定に関連した文書類等の整備 (2)看護必要度の評価実績の維持	1.　患者・家族が安心して手術が受けられる環境づくりと、看護の提供に努める 1）　術前訪問で患者と面識を得る 2）　麻酔パンフレットで説明を行い、手術の流れや麻酔について把握してもらう 3）　術後訪問は70％訪問出来ているため80％にあげたい 4）　手術室清掃マニュアルの見直し	1.　術前訪問をパンフレットを使用し、患者及び家族に説明することで、手術前処置や麻酔の内容、手術の流れ、帰室してからの流れなどを理解してもらえることが出来た。 3）　術前訪問はほぼ100％実施出来ている。術後訪問は金曜に訪問する計画であるが、器械の片づけや、物品補充が重なり35％の実施率となった。時間調節し次年度の課題とする。
2.　専門職としての自己研鑽を重ねる 1）院内・院外研修への積極的な研修 2）研究的視点での業務改善 (1)年度末に取り組み報告(発表)会の開催	2.　他病院の手術室の見学 1）　当院手術室の質を高め、業務改善に活かす 2）　院内・院外研修への参加	2.　手術室見学は他病院と調整中であり引き続き、調整が必要である。院外研修では、中材及び感染対策研究会などに参加し、スタッフと情報を共有した。
3.　病院経営へ積極的に参画する 1）病院の運営方針に基づいた経営目標を理解 2）病床管理を主導し1日平均患者数：104名を達成 3）患者・家族に満足していただけるサービスの提供	3.　手術に関する診療報酬点数を把握しコスト意識を高めコスト漏れをなくす	3.　目立ったコスト漏れは現在ない。引き続き、コスト漏れしないよう確認をする。

平成26年度　看護部目標

3階病棟

看護部の目標	病棟の目標	評　　価
1. 看護の質を高めるための取り組みを強化する 1）基本に則った個別的な看護の実践 (1)患者基礎情報からの問題点の明確化 (2)計画に基づく看護の実践記録 (3)患者カンファレンスの定着 2）患者の安全確保を優先した看護の実践 (1)インシデント事例の検証による再発防止 (2)転倒・転落事例の検証 (3)感染対策の維持強化 3）業務マニュアル等の整備 (1)看護手順・各種マニュアルの整備と活用 (2)各部署の業務手順の見直し 4）関連部門間の連携による業務改善(電子化を視野に) (1)医事算定に関連した文書類等の整備 (2)看護必要度の評価実績の維持	1. 看護の質を高めるための取り組みを強化する 1）基本に則った個別的な看護の実践 (1)患者基本情報からの問題点の明確化 基礎情報を漏れなく記載し全体像を把握する (2)入院7日目に必ず看護評価を行う (3)週5回患者カンファレンスを行い、情報を共有する 2）患者の安全確保を優先した看護の実践 (1)インシデント事例を毎回カンファレンスにかけ解決策の検討を行う (2)入院時転倒・転落アセスメントスコアシート危険度Ⅱ以上の患者に対して入院後に行動の違いがある患者にはもれなくカンファレンスを行い情報を共有する (3)処置ごとの手洗いを徹底し、感染予防に努める 3）業務マニュアル等の整備 (1)各種マニュアル・手順の見直し、委員会に協力し看護手順に沿ったケアの実施と活用ができる (2)3階病棟として手順の見直しをし業務の整理をする 4）関連部門間の連携による業務改善（電子化を視野に入れ） (1)書類等のデジタル化への積極的な協力を行う (2)看護必要度にそった看護記録の徹底と記入漏れを防ぐ	1. 1）受持ち制となり、入院時より看護計画を立案し、受持ち看護師が適宜看護評価を行っているが、7日目以降が多い。 退院サマリーは、必要時記入出来ているが、他施設などへの情報提供の必要がない場合は、経過記録用紙に要約している。 2）インシデントレポートがあれば適宜カンファレンスが行われ、安全確保を優先した看護実践に努めている。感染予防のため手洗いは、欠かさず徹底して行うよう心がけている。 3）業務マニュアル、手順は少しずつであるが、進んでいる。3階病棟としては、TKA、THAのクリティカルパスを作成する。 4）看護必要度の研修を行い理解度も深まっている。
2. 専門職としての自己研鑽を重ねる 1）院内・院外研修への積極的な研修 2）研究的視点での業務改善 (1)年度末に取り組み報告(発表)会の開催	2. 専門職としての自己研鑽を重ねる 1）院外研修に年1回は参加する 2）業務改善を行うことによる日常業務の変化を研究レポートへまとめる	2. 院内外研修の参加は、以前に比べ参加意欲が増した。 ・院外研修は、延べ15名が参加し研鑽を積む機会とした。しかし、一人が複数回の参加であるため、今後は平均した参加となるよう促していく。 ・インシデント報告を基に、情報共有の重要性を年間のまとめとして院内活動報告会で発表した。

3. 病院経営へ積極的に参画する 1）病院の運営方針に基づいた経営目標を理解 2）病床管理を主導し1日平均患者数：104名を達成 3）患者・家族に満足していただけるサービスの提供	3. 病院経営は積極的に参画する 1）各人がコスト意識を持ち業務を行う 2）1日平均在院患者数：30～32名を目指す 3）人工関節置換患者様対象に満足度調査を行う（1か月約12名・期間7か月）	3. 1）各自がコスト意識を持って業務を行っている。 2）入院患者数は32名を超えている月が多くなっている。 3）8月から12月にかけて計71名の人工関節置換術患患者を対象に満足度調査を行った。結果を、今年度の活動報告会で発表した。

平成26年度　看護部目標

4階病棟

看護部の目標	病棟の目標	評　　価
1．看護の質を高めるための取り組みを強化する 1）基本に則った個別的な看護の実践 (1)患者基礎情報からの問題点の明確化 (2)計画に基づく看護の実践記録 (3)患者カンファレンスの定着 2）患者の安全確保を優先した看護の実践 (1)インシデント事例の検証による再発防止 (2)転倒・転落事例の検証 (3)感染対策の維持強化 3）業務マニュアル等の整備 (1)看護手順・各種マニュアルの整備と活用 (2)各部署の業務手順の見直し 4）関連部門間の連携による業務改善(電子化を視野に) (1)医事算定に関連した文書類等の整備 (2)看護必要度の評価実績の維持	1．看護の基本を理解し個別的な看護実践ができる 1）看護上の問題点を明確にするための情報収集ができる 患者の状態変化に対応した計画と実践ができる 委員会と連動し記録の勉強会を実施する 患者カンファレンスの定着を図る 2）転倒・転落アセスメントシートの活用により転倒事例のアクシデントを発生させない 3）環境整備を強化し院内感染を防止する 4）看護手順等の整備を積極的に行い、マニュアルに準じた行動ができる 5）医療区分表、看護必要度の評価を確実に行う 6）他部門との情報交換の機会をもつ	1．1）回復期リハ病棟へ移行後は、在院患者の移動・状態変化が多く、看護計画が追いついていなかった。しかし、患者カンファレンス・インシデントに関連した検討は積極的に実施するよう努力した。看護補助者の参加により、変化する患者のADLや安全確保等、情報が周知できるようになった。定着に向け更に工夫を行っていく。 2）転倒によるアクシデントの発生はなかったが、アセスメントスコア・対策表の活用は十分でなかった。状態変化時・転倒時の評価を確実に実施する。 3）環境整備の継続は看護補助者の力が大きく、常に清潔が維持できた。季節的な感染症を含め重大な発症がなく経過したのは各自の意識の成果と考える。 4）看護手順等マニュアルの活用は少なかった。病棟独自の手順書を作成し周知できるよう取り組んだ。 5）院内研修が開催され学習の機会となった。実際の評価表の記録漏れが時々あるため、定期的なチェックを検討している。 6）リハ科との連携は図れているが、年間の活動報告会により、他部門の活動を知る良い機会となった。勤務の都合で参加はできなかったが院内LANに掲載されている資料を閲覧した。
2．専門職としての自己研鑽を重ねる 1）院内・院外研修への積極的な研修 2）研究的視点での業務改善 (1)年度末に取り組み報告(発表)会の開催	2．専門職としての自己研鑽を重ねる 1）各人が年間3回以上の研修会に参加し研鑽を重ねる 2）業務の見直しを積極的に行い成果としてのまとめができる	2．1）目標は平均的にみると達成できなかったが、スタッフ個別には積極的な参加があった。しかし、院外研修への参加は少なく、引き続き可能な範囲での研鑽を意識づけていく。

		2）今年度の最も大きな動きであった、回復期リハ病棟への移行には積極的に取り組み、院内発表ができた。しかし、時間的な要因もあるが、全員を巻き込んだ活動報告ではなかった点が課題であった。次年度以降は、患者に目を向けた研究的な取り組みを検討していく。
3．病院経営へ積極的に参画する 1）病院の運営方針に基づいた経営目標を理解 2）病床管理を主導し1日平均患者数：104名を達成 3）患者・家族に満足していただけるサービスの提供	3．回復期リハビリテーション病棟への移行が順調にすすめられる 1）目標患者数の確保のための病床管理を行う 2）患者サービスの評価に繋がる指標を作成する 3）接遇研修への積極的参加と定期的なマナーチェック	3．1）7～8月ごろから、療養病棟から回復期リハ病棟への移行準備として、転院・転棟等患者の移動が本格化した。回復期リハ病棟開設に向けて、施設見学や必要な帳票類の作成等を実施し準備を進めた。院内LANによる業務遂行が効率的であった。患者数の確保は目標達成できなかった。年間の平均患者数は41.6名であるが、10月以降は39.7名だった。転入患者数は、月平均19.7名、8月以降は24.6名と転入・退院患者数が増加し、以前に比較し回転率が高まった。 2）病院全体として、7月から退院患者アンケートを開始した。結果は、委員会を通じて、看護部の会議で報告し内容の確認と改善に向けた検討を行った。当病棟独自での大きな問題の指摘はなかった。看護補助者を中心としたレクレーションの開催が好評であり、次年度以降も患者サービスに繋がる内容を検討していく。 3）接遇研修には13名が参加した。定期的なマナーチェックを継続し、日頃から気付いた時はお互いに注意しあえるよう取り組んだ。

平成26年度　看護部目標

看護部の目標	病棟の目標	評　　価
1．看護の質を高めるための取り組みを強化する 1）基本に則った個別的な看護の実践 （1）患者基礎情報からの問題点の明確化 （2）計画に基づく看護の実践記録 （3）患者カンファレンスの定着 2）患者の安全確保を優先した看護の実践 （1）インシデント事例の検証による再発防止 （2）転倒・転落事例の検証 （3）感染対策の維持強化 3）業務マニュアル等の整備 （1）看護手順・各種マニュアルの整備と活用 （2）各部署の業務手順の見直し 4）関連部門間の連携による業務改善（電子化を視野に） （1）医事算定に関連した文書類等の整備 （2）看護必要度の評価実績の維持	1．看護の質を高めるための取り組みを強化する 1）患者基礎情報の記入ができサマリー等が活用できる（問題の明確化） 2）受け持ち看護師が責任を持って変化の生じた時に計画の変更ができる 3）カンファレンスは受け持ち患者から行う 2．患者の安全確保を優先した看護の実践 1）インシデント発生時は速やかにカンファレンスを実施し意見交換を行い再発防止に努める 2）スコアシート、計画表を活用できる 3．手指消毒環境整備が行える エプロンを適切に使用できる 看護手順・各種マニュアルの見直し整備をする 4．院内LANを活用し共有の情報収集を行う	1．1）患者の基礎疾患の記入はしっかりできているが問題点の明確化、初期計画に結びついていない。 2）初期計画が立案できても、変化の生じた時の計画の変更が出来ていない。 3）カンファレンスの定着が出来ていない。 2．安全面での注意を行っているが計画が伴わない。 1）インシデント発生時のカンファレンスが速やかに行われていない事がある。 2）スコアシート、計画表の変更が出来ていない。 3．手指消毒、エプロンの使用を効果的に行うことができた。 看護必要度の研修を行う必要がある。 4．毎日、院内LANからの情報収集を積極的に行うことができなかった。
2．専門職としての自己研鑽を重ねる 1）院内・院外研修への積極的な研修 2）研究的視点での業務改善 （1）年度末に取り組み報告(発表)会の開催	2．院内外の研修に参加する	2．研修には積極的に参加している。
3．病院経営へ積極的に参画する 1）病院の運営方針に基づいた経営目標を理解 2）病床管理を主導し1日平均患者数：104名を達成 3）患者・家族に満足していただけるサービスの提供	3．病院の経営運営方針を理解し積極的に参加する 1日平均在院患者数：26名を目標とする 患者家族に満足していただけるようスタッフ間で意見交換しあう	3．目標患者数には達しなかったが、患者さまに満足していただける対応に努力した。

平成２６年度看護部活動総括

月	主な活動	備　考
4月	・在宅支援事業立ち上げ　検討会始まる（4/23） ・回復期リハ病棟の説明会（4/30） ・看護部委員会立ち上げ稼働(業務・記録)　隔月に開催 ・パソコン研修(4/21～5/26)　計7回　延65名参加 　講師　医事 芝﨑/総務 庄司	・永年勤続表彰　井上節子(10年) ・予防衣・エプロンの廃止（4/4返却） ・ICTラウンド本格稼働
5月	・回復期リハビリ病棟への移行計画 　名谷病院施設見学(5/23);（鈴木看護部長・坂本師長・ 　山本看護主任・田中看護師）	・1患者1トレーの周知；トレーの配布
6月	・看護職員面接開始（6/6～6/30） ・4階の看護補助者一般病棟への応援体制開始 ・求職者相談会：アイビーメディカル(6/21,22) ・救急対応研修(看護部・リハ科)	・採用；看護師2名(6/2,23付） ・看護部長；看護協会長賞 受章 ・節電対策委員会立ち上げ ・医療マネジメント学会(開催：岡山)
7月	・退院時患者アンケート開始(7/1～) 毎月ごとに集計し当該会 　議で結果を報告 ・ふれあい看護体験（看護協会）;3名受け入れ(7/25) ・回復期リハ病棟立ち上げに向けた検討会開始 ・病棟改修工事；(段差解消・洗浄室の整備;7/30～）	・接遇研修(参加者;全体47名　看護部；31名） ・田辺すみれハイム内覧会（8/24,25） ・防火訓練(7/18)
8月	・回復期リハ病棟施設見学；白浜はまゆう病院;(8/29) （木村副看護部長・山本看護主任・田中看護師・（リハ；中通）） ・回復期リハ病棟用記録紙・関連部門との連携方法検討 ・看護フェア実行委員会開始 ・ヘルパー研修2名受け入れ；担当　木村・松場 ・4階病棟改修工事（病室をシャワールーム・トイレへ）完成 ・2階浴室に手摺り増設	・准看護師1名採用 ・院内異動；看護師2名(8/1付） ・退職；看護師・准看護師・看護補助者各1名 ・院長室移動;2階～6階へ ・女子更衣室移動;3階～2階（ドアロック式へ）
9月	・救急功労者表彰；植本　進(3階病棟） ・訪問看護業務開始 ・個室床頭台入れ替え(4階)/一般病棟をすべてTV付に変更	・採用；看護師・准看護師各2名 ・退職；看護師・准看護師各1名 ・田辺すみれハイム開設（9/1） ・職員休憩室移動3階～6階へ(9/25)
10月	・回復期リハ病棟開設(療養病床から移行) 　記録用紙改定；熱表/与薬管理表(新規) ・パソコン1台増設(4階　10/20) ・ナースステーションの手洗い更新（10/4）	・看護師2名採用 ・田辺すみれ苑秋祭り ・出張健診(10/29,30　7名参加)
11月	・人事考課 ・就職相談・面接（11/2）アイビーメディカルKK ・潜在看護職員復職支援研修　2名受け入れ(11/11～17) ・第2回看護フェア開催（11/29) 　於；紀南文化会館小ホール　参加者231名	・採用；看護助手1名 ・保健所立入検査（11/18） ・自衛消防訓練・津波避難訓練(11/27) ・ネットワークダウン(11/17～24)
12月	・医療安全に関するアンケート調査実施 ・与薬手順(方法)の変更(4階病棟)	・退職;看護師長2名　看護師1名
H27 1月	・医療マネジメント学会和歌山支部学術集会（1/31） 　1題発表　3名参加(木村発表) ・インフルエンザ蔓延対策強化開始	・昇任；看護主任1名　院内異動;3名 ・退職；看護師1名　看護助手1名
2月	・第1回　田辺中央病院　活動・症例報告会（2/28） 　発表;ICT/3階/4階/5階病棟 ・脳外科回診開始；回リハ病棟を主とする 　まろクリニック大浦医師;毎火曜日（15:30～）	・退職；看護師1名　看護助手1名 ・職員満足度調査実施(総務)
3月	・看護職員確保対策アンケート調査を実施し検討を始める ・新規採用者受け入れ準備；プリセプターナースの位置付け ・看護学雑誌　定期購読開始；各部署を回覧 ・活動・症例報告会　優秀賞表彰	・採用；看護師1名　看護助手2名 ・退職；看護師1名 ・職員募集用ビデオ作成(総務)

平成26年度　活動（症例）報告会

日　時：2015.2.28　13:30～16:00

場　所：本部会議室　　　　司会進行：高岡事務長　木村副看護部長

講評及び審査員：前田理事　髙橋顧問　浅井院長　谷口副院長　鈴木看護部長

	部　署	テ　ー　マ	発表者
1	リハビリテーション科	右立脚初期から中期に右前側方へ不安定が生じた右大腿骨顆上骨折の一症例	李　圭敦
2	4階病棟	回復期リハ病棟開設に向けて リハビリテーション科との情報共有を中心とした取り組み	松場　かおり
3	放射線科	MRI検査の安全管理　～MRI導入から現在まで～	那須　満 狹口　智也
4	3階病棟	みんなで共有しよう　アセスメント情報	山田　真記子
5	医事課	DPCデータ業務の取り組みについて	濵口　雄大
6	地域医療連携室	平成26年度　地域医療連携室年間報告	上山　貴行 芝﨑　修平
7	検査科	血液塗抹標本（スメア）による目視分類が慢性骨髄性白血病（CML）の診断のきっかけとなった1例	中嶋　欣也
8	5階病棟	褥瘡へのかかわり：治癒例	後藤　文子
9	薬局	薬局の軌跡　2014	笠松　泰成
10	栄養課	平成26年度　業務報告	藤岡　美保子
11	総務課	より良い職場環境を目指して	赤松　誉大
12	ICT	ICT活動報告	松本　澄人

優秀賞；検査科

最優秀賞；リハビリテーション科

優秀賞；4階病棟

第一回の活動報告会でしたが、各部署から積極的な演題登録があり、13題の発表ができました。勤務の都合等で参加できなかった職員もありましたが、43名の皆さんが土曜日の午後、熱心に参加されました。予定時間を延長するほどの盛況で終了しました。後日、全体朝礼において、院長先生から最優秀賞・優秀賞の表彰がありました。次年度に向け、更に研究的な取り組みに努力したいと思います。

報告会の様子

手術室・内視鏡室　　　　　　　　　　　　　　　　　　副看護部長　　松本　澄人

●スタッフ構成

看護師　　　　３名

准看護師　　　１名

補助者　　　　１名

≪内視鏡室≫

平成２６年度内視鏡検査総件数は２４７件で、上部内視鏡検査件数が２１８件（内　経鼻内視鏡検査４１件）、下部内視鏡検査件数が２９件であった。

		点数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
外科	上部	1,140	14	11	9	14	10	12	17	8	9	8	10	18	140
	(内 経鼻)	1,140					②	③	⑦	②	②	④		⑤	㉕
	下部	1,550	1	1	1	2	2	1	5	3	2		1	1	20
内科	上部	1,140	11	12	7	7	6	6	2	2	4	5	4	12	78
	(内 経鼻)	1,140						③	①		①	③	③	⑤	⑯
	下部	1,550			1			1	1		1	3	2		9
計			26	24	18	23	18	20	25	13	16	16	17	31	247

●機器導入・更新

８月　　内視鏡システム、最新機器ＬＵＳＥＲＡに更新

大腸内視鏡スコープ最新の機種に更新

内視鏡焼灼装置更新

経鼻内視鏡スコープ新規導入

４月に着任された杉平医師のもと、経鼻内視鏡スコープ新規導入により苦痛の少ない安全な内視鏡検査を行っている。

≪手術室≫

平成２６年度手術総件数は３１９件で、外科２３件、整形外科２９６件（内　人工関節置換手術１８１件）であった。

整形外科手術件数

手術名	点数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人工股関節置換術	37,690	1	3	5	3	3	1	4	2	3	3	3	2	33
人工膝関節置換術	37,690	12	12	10	17	8	14	19	14	8	14	9	11	148
人工股関節再置換術	54,810					1	1							2
人工膝関節再置換術	54,810	1		3		1			1	1			2	9
切断術【下腿】	24,320				2									2
化膿性関節炎掻把	20,020							1			2			3
人工骨頭置換術	19,500		4		1	1				1		1	2	10
大腿・上腕骨頚部骨折	18,810	1	3		1	2	1	2	5	4	3	1	1	24
大腿骨骨折骨接合術	18,810			1										1
前腕・下腿骨骨折骨接合術	14,810		1		1		2	1		1			1	7
腱縫合術	11,320						1			1			3	5
神経剥離術	10,900		1											1
鎖骨・踵骨・手足指骨折骨接合術	9,480					1					2			3
膝蓋骨骨折骨接合術	9,480					1							1	2
抜釘術【上腕】	7,870							1		1	1			3
抜釘術【下腿】	5,200	1	2											3
その他		5	3	7	3	1	3	7	6	2	1	2		40
計		21	29	26	28	19	23	35	28	22	26	16	23	296

外科手術件数

手術名	点数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
腹会陰式直腸切断術	77,120					1								1
胃悪性腫瘍手術	55,870												1	1
総胆管空腸吻合術	28,210												1	1
切断術【大腿部】	24,320							1						1
胃血管結紮術	11,360		1											1
イレウス	12,010											1		1
胆嚢摘出術	20,960	1			1									2
腹腔鏡下胆嚢摘出術	21,500	1												1
CVポート留置術	10,800	1		1			1							3
虫垂切除術【膿瘍伴う】	8,880								1					1
人工肛門造設術	7,980													1
ヘルニア手術【鼠径】	6,000						3					1	1	5
その他		1						1					2	4
計		4	1	1	1	1	5	2	1	0	0	2	5	23

１０月に麻酔器点検、麻酔器用人工呼吸器点検修理を実施した。

３月２５日より非常勤麻酔科医１名増員となり水曜・木曜日の手術は全身麻酔で行うことになった。手術を受けられる患者さんに、手術に立ち向かっていくうえでの不安を減らし、安心・安全に手術を終えて良好な経過をたどって頂けるよう、援助する。

術後訪問を実施し手術室内のＢＧＭで「少し緊張がほぐれた。」との感想を頂き苦痛な検査の内視鏡検査室に於いてもＢＧＭを流し患者さんの緊張緩和を図っている。

広報誌に、経鼻内視鏡について掲載しＰＲを行う。

術式別算定件数　外来

手術名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
関節脱臼非観血的整復術(小児肘内障)			1		2				2	1	1	1	8
関節脱臼非観血的整復術(肩)			1										1
関節脱臼非観血的整復術(指)		1											1
陥入爪手術					1					1			2
腱縫合術(切創等の創傷)創傷処理					1								1
腱鞘切開術	1	3	4				1	1		1	1		12
骨折観血的手術(指)										1			1
骨折非観血的整復術(前腕)		1	1								1		3
骨折非観血的整復術(手)									1				1
骨折非観血的整復術(鎖骨)							1						1
爪甲除去術	2		1			1	1			1	1		7
創傷処理	9	6	11	12	14	16	13	18	12	10	11	10	142
皮下腫瘍摘出術		1	2			1			2		2		8
皮膚腫瘍摘出術		1											1
皮膚切開術	1	2	1	2	2	2	2	4	1		1	1	19
合 計	13	15	22	14	20	20	18	23	18	15	18	12	208

術式別算定件数　入院

手術名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
アキレス腱断裂手術						1			1				2
胃血管結紮術(急性胃出血手術)		1											1
胃切除術(悪性腫瘍手術)												1	1
胃瘻造設術				1									1
観血的関節授動術(膝)												1	1
化膿性又は結核性関節炎掻爬術(膝)										1		1	2
化膿性又は結核性関節炎掻爬術(股)							1						1
関節脱臼非観血的整復術(股)	1								1				2
関節内異物除去術(股)										1			1
関節内骨折観血的手術(手)												1	1
陥入爪手術	2					2	4						8
気管切開術									1				1
腱鞘切開術		4					2	2					8
腱縫合術												3	3
肛門周囲膿瘍切開術						1							1
骨折非観血的整復術(上腕)			1									1	2
骨折非観血的整復術(大腿)			1										1
骨折観血的手術(前腕)				1			1		1				3
骨折観血的手術(上腕)								1		1			2
骨折観血的手術(手(舟状骨を除く))							1						1
骨折観血的手術(指)										1			1
骨折観血的手術(大腿)	1	3	1	1	2	1	2	4	3	2	2	1	23
骨折観血的手術(下腿)		1				2			1				4
骨折観血的手術(足)					1								1
骨折観血的手術(膝蓋骨)					1								1
骨折経皮的鋼線刺入固定術(手)						1							1
骨内異物除去術(上腕)							1		1	1			3
骨内異物除去術(前腕)			1										1
骨内異物除去術(指)											1		1
骨内異物除去術(下腿)	1	1											2
骨内異物除去術(足)		1											1
骨内異物除去術(膝蓋骨)								1					1
肛門拡張術(観血的なもの)							1						1
四肢切断術(大腿)							1						1
四肢切断術(下腿)				2									2
手根管開放手術				1			1	1	1				4
人工関節置換術(膝)	13	12	10	17	8	14	18	14	8	14	9	11	148
人工関節置換術(股)	1	3	5	3	3	1	5	2	3	3	2	2	33
人工関節再置換術(膝)			3		1				1			1	6
人工関節再置換術(股)					1	1							2
人工関節抜去術(膝)						1		1					2
人工骨頭挿入術(股)		4		1	1				1		1	2	10
人工肛門造設術						1							1
神経移行術									1				1
神経剥離術(その他のもの)		1					1						2
爪甲除去術			1										1
創傷処理	1	1										1	3
胆嚢摘出術	1			1									2
胆嚢摘出術と十二指腸空腸吻合術併施												1	1
腸閉塞手術(腸管癒着症手術)											1		1
直腸切除・切断術(切断)					1								1
中心静脈栄養用植込型カテーテル設置	1		1			1							3
虫垂切除術(虫垂周囲膿瘍を伴うもの)								1					1
デブリードマン	1											2	3
内視鏡的消化管止血術		1									1	1	3
内視鏡的食道及び胃内異物摘出術				1									1
膿瘍切開術				1		1			1				3
非観血的関節授動術(膝)		1	3	2		2	1	1					10
皮膚切開術			1		1								2
皮膚、皮下腫瘍摘出術				1			1						2
皮弁作成術.移動術.切除術.遷延皮弁術							1						1
腹腔鏡下胆嚢摘出術	1												1
ヘルニア手術(鼠径ヘルニア)						3					1	1	5
合 計	24	34	28	33	20	33	42	28	25	24	18	31	340

医　事　課　　　　　　　　　　事務課長　　濵口　雄大

Ⅰ　スタッフ構成

事務長	高岡　克示	事務員	田中　知美
事務課長	濵口　雄大	事務員	稗田　拓也
主任（診療録管理者兼務）	坂本　幾左子	事務員	吉村　由美
		事務員	山ノ内　仁美
		事務員	松田　沙織
		事務員	中谷　輝洋
		事務員	上西　真由
		事務員	石本　仁美
		事務員	北田　巨也子

Ⅱ　主な業務

総合案内　受付業務　診療情報管理　診療行為入力　会計業務　入退院業務
診療報酬請求業務　電話/来客対応　医事統計業務　ドック・健診業務　予防接種受付
未収金管理　宿直業務　医師事務作業補助　施設基準届出業務　庶務全般

◍外来担当
・受診に関する診療録作成及び管理、診療報酬請求業務
・電話/窓口での案内・相談業務、各種文書の取扱い、外来予約管理

◍入院担当
・入退院時における事務処理及び手続き、診療報酬請求業務
・入院に関わる各種手続き及び文書の取扱い
・入院カルテ管理、退院サマリー作成補助、診療情報管理

◍医事統計、データ処理担当
・診療報酬に関わる統計業務
・入院/外来/病棟単位/科別/各部門別統計、回復期リハビリテーション病棟統計
・DPCデータ作成

◍庶務担当
・寝具、郵便発信/受信に関する業務、伝票処理

◍ドック・健診担当
・事業所/保険者との契約、予約管理、請求業務、受診者記録管理、結果入力業務
・事業所/項目/月/日別受診者数統計、再診者管理
・労働基準協会と提携した夏期集団健診、秋期出張健診に関する業務

Ⅲ 総括

平成２６年度は回復期リハビリテーション病棟開設、田辺すみれハイムオープン、訪問診療開始、ＤＰＣデータ提出など病院として大きく変化があった年でした。環境が変化していく状況の中、新しい体制を構築していくことが年度当初の課題であり、年間を通じて変化に対応できるよう業務に取り組みました。

また、医事課では入退職が多かった年でもあり、人員が大きく入れ替わりました。新たな制度への対応に加え、人員交代の影響で受付・外来・入院・健診・統計・庶務などの通常業務におけるミス増加や質の低下が否めませんでした。各担当者とも必要な医療知識習得とその指導を行い効率よく業務することが求められ、人員交代時には医事課スタッフみんなで欠員分をカバーしあいそれぞれが責任を果たせられるよう取り組みました。

来年度は質・機能向上と業務分担による効率性を上げることを目指し、それを継続してくことが課題であり、各部門との連携においてもスムーズに行えるよう取り組んでいきます。

また、診療報酬改正における算定項目の再確認及び施設基準を満たす算定項目のチェックなど再度見直しレベル向上につなげていきたい。

Ⅳ 次年度 目標

■機能回復/質の向上

入退職が多かった前年度の影響を回復・機能向上を目指す

課題

①受付機能回復、問題点改善

②入院業務レベル回復・知識習得、正確性向上、医科点数算定項目整備

③健診再診率・がん検診率ＵＰ、質・サービス向上、新システム移行への対応

④ＤＰＣ業務レベル向上、知識習得、疾患コード追求

⑤医科点数解釈の理解、ＰＣ/レセコン操作など技術面習得による能力向上

⑥患者データ・医事集計・記録業務の正確性向上と効率化

⑦職場環境改善

健　診　部　　　　　　　　　　　　　　　　医事課　　田中　知美

Ⅰ健診部構成メンバー

濵口事務課長、田中事務員（医事課）、吉村事務員（医事課）、海谷看護師、
狹口放射線技師、中嶋検査技師

Ⅱ実施健診

協会けんぽ（生活習慣病予防健診）
田辺市・上富田町 各種特定健診
田辺市国保ドック
特殊健診（有機溶剤健診、じん肺健診等）
労働安全衛生法に基づく健診（一般事業所健診、雇入時健診、集団健診、出張健診）
各種院内ドック（日帰り、生活習慣病、メタボ・動脈硬化、肺、甲状腺・更年期、アレルギー等）
田辺市がん検診（胃・肺・大腸・肝炎ウイルス）
後期高齢者健診
ＱＦＴ
Ｂ型肝炎ワクチン
公立学校共済人間ドック

Ⅲ総評

平成２６年度は前年度に改善した業務継続とともに質の向上に取り組み、新たに単価見直しや職員の健康管理のための追跡調査を行った。また、医師の負担を考慮し外来診療とのバランスを考え予約調整を実施。平成２６年９月には経鼻内視鏡検査の対応を開始した。

次年度はがん検診受診推奨と引き続き質・サービスの向上に取り組んでいく。

Ⅳ年間スケジュール／月別健診者数

平成26年	4月	4/1～協会けんぽ生活習慣病予防健診スタート 4/15～田辺市各種検診スタート 田辺すみれ苑職員健診1回目（77人）	89人
	5月		70人
	6月		80人
	7月	自院職員健診1回目（116人）	99人
	8月	集団健診（253人）8月下旬～9月中旬	62人
	9月	田辺市役所Ｂ肝検査（75人）	90人
	10月	出張健診（287人）10/29・10/30（2日間）	121人
	11月	田辺すみれハイム職員健診1回目（24人）　10・11月	91人
	12月		86人
平成27年	1月		73人
	2月	自院職員健診2回目（40人）	118人
	3月		95人

計　1074人

平成26年度 ドック・健康診断 総受診者数/再診率

月/項目	ドック	健診	計	有所見者数	割合	視聴力除く有所見者数	再診数	再診率
4月		89	89	62	69.7%	45	4	8.9%
5月		70	70	53	75.7%	38	4	10.5%
6月	1	79	80	46	57.5%	42	4	9.5%
7月	1	98	99	37	37.4%	33	5	15.2%
8月		62	62	30	48.4%	23	1	4.3%
9月	2	88	90	24	26.7%	18	3	16.7%
10月	1	120	121	51	42.1%	47	7	14.9%
11月	1	90	91	66	72.5%	55	5	9.1%
12月		86	86	61	70.9%	54	8	14.8%
1月		73	73	44	60.3%	33	4	12.1%
2月		118	118	77	65.3%	65	6	9.2%
3月	1	94	95	38	40.0%	35	4	11.4%
計	7	1,067	1,074	589	54.8%	488	55	11.3%

平成26年度 集団・出張健診 総受診者数/再診率

項目	受診者数	有所見者数	割合	視聴力除く有所見者数	再診数	再診率
集団	253	160	63.2%	125	6	4.8%
出張	287	196	68.3%	159	1	0.6%
計	540	356	65.9%	284	7	5.4%

夏期 集団健診（8月26日～9月17日） 事業所数 20 受診者数 253人
秋期 出張健診（10月29・30日） 事業所数 13 受診者数 287人

平成２６年度　ドック・健康診断　種別受診者数

種　別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ドック	胃カメラ有			1			1		1					3
	胃透視有				1		1	1					1	4
	一般													
一般 ＋ 企業	胃カメラ +一般		2								1			3
	胃透視 +一般						6	4	2	1			2	15
	一般 (血液有)	82	39	28	46	38	23	23	56	39	30	59	31	494
	一般 (血液無)	7			29	8	9	28	5	19	30	32	23	190
	特定健診				1				3	2	1			7
生活習慣病予防健診	胃カメラ有		2		6	1		3	3	2	2	3	5	27
	胃透視有		5	8	6	7		5	5	4	5	11	4	60
	一般		15	21	1	2		3	3	12	2	2		61
市・町検診	胃がん検診		1	2	1			1		3		1	3	12
	大腸がん検診		5	5	3	1		1	1	2	1	3	3	25
	肝炎ウイルス			1					2			1	2	6
	後期高齢者											1		1
	肺がん検診		1	4	1	2		1	2	1	2	2	5	21
その他	QFT												5	5
	B肝検査			4			42	33					4	83
	便(細菌)			3	5	4	4	5	5	2				28
	B肝ワクチン			4			4	9	5			4	14	40
合　計	ドック			1	1		2	1	1				1	7
	各種健診	89	70	69	94	59	38	69	82	85	74	115	78	922
	その他			11	5	4	50	47	10	2		4	23	156

平成２６年度　ドック・健康診断　要治療/要精査該当　検査項目別一覧

項目/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
血圧	11	7	3	4	6	4	11	7	7	8	12	8	88
尿糖	1	1	1	1	1	1	2	2					10
尿蛋白							3				2	4	9
尿潜血											1		1
肝機能	10	9	13	7	3	5	14	11	11	9	16	10	118
脂質	14	9	16	7	2	8	11	15	15	13	19	15	144
糖	5	4	3	4	2	2	5	8	5	6	7	5	56
胸X-P	1	4	7	7	6	1	6	10	11	3	14	5	75
便潜血		12	12	2		3	8	3	7	3	3	5	58
貧血	2	4	4	1	3		3	5	5	1	1	2	31
腎機能			2										2
尿酸		2	4	2	1	1	3	3	3	2	4	2	27
腹部ｴｺｰ		3					1						4
胃		4	1	3	1		3	5	6	1	5	5	34
心電図	14	7	4	7	4	1	5	15	11	9	7	7	91
自覚症状	5	2	4	3	3	3	7	6	5	3	12	4	57
他覚症状			5				3	1		1	3	2	15
視力	25	19	9	13	11	10	12	22	17	15	28	9	190
聴力							4				6	7	17
白血球	3	2	3	1	1	1	1	2			2		16
眼底		4	4	1		5	5	1	1			2	23
肥満	6		2	4		5	5	5	1	4	14	2	48
多血	5		4	2		2	3	6	5	5	14	4	50
尿沈渣							2						2
	102	93	101	69	44	52	117	127	110	83	170	98	1,166

総務課（研医会本部）　　　　　　　　　　　事務次長　　稲垣　之源

□　医療法人研医会グループ

・田辺中央病院
・サービス付き高齢者向け住宅　田辺すみれハイム
・医療法人董会　介護老人保健施設田辺すみれ苑
・医療法人董会　介護老人保健施設野洲すみれ苑

Ⅰ　総務課・研医会グループ本部職員構成

事務次長（本部長兼務）	稲垣	之源
課長	石田	純哉
主任	土井	千鶴
施設管理主任	岩城	寿之
事務員	山田	友見
事務員	赤松	誉大
事務員	中松	千秋
嘱託	古久保	好秀
嘱託	大浦	三夫
嘱託	南	春夫

Ⅱ　主な業務

□人事管理	職員採用・求人・各種保険・各種申請書作成
□財務管理	預金管理・銀行取引・給与・会計業務
□施設経営企画	病院、施設運営企画
□債権管理	入院・外来・家賃・共益費等の管理
□設備・備品管理	建物設備の保守・各種機械類の管理
□車両管理	職員・施設車両の管理
□各種規定管理	就業規則・内規の作成
□広報	広告・ホームページ・イベント

□　研医会グループ本部事業

1．人事関係

・職員の安定雇用対策を各施設共通の問題として捉え総合的な対策を講じる。
・各施設合同での研修会や講演を実施し職員のスキルアップに繋げる。
・メンタルヘルス対策等、労働環境改善策を合同で考える。

２.施設運営

・各施設の財務に関しては、本部会議での報告により、現状の把握と対策について考える。

・業者交渉の一本化により単価の調整。

・事務連絡会議にて各施設の事務と本部職員との事務作業の効率化を随時考える。

３.福利厚生

・施設合同での忘年会、新年会、その他合同レクレーションの計画と実行。

４.各施設のプロモーション

・施設合同での広告、就職フェア等の実施。

・企業イメージアップの為の方策を考える。

Ⅲ　総評

本年度は３月着工のサービス付き高齢者向け住宅、田辺すみれハイムが８月に完成、９月１日より業務開始となった。

敷地は、平成２５年９月、一般財団法人新庄愛郷会様所有の土地２６３９.８０㎡を購入、隣接地２２０９.２０㎡については借地契約とした。

設計はＺＥＮ設計（和歌山市)、施工業者は株式会社あかりホーム（和歌山市)、２階建延床面積１７４７.８０㎡鉄骨造・ガルバリュウム鋼板葺。

借入先は第三銀行田辺支店、土地、建物合計での期間２０年とする。

すみれハイムの職員に関しては、８月までに介護職員２３名を新規に採用し、８月１８日より研修期間を得て９月１日オープンを迎えた。

また、平成２５年１０月、病院前（南新町１－５・６）の宅地３６８.４５㎡を購入、本部棟の建築予定地とし、平成２６年５月、株式会社山幸様に建築依頼、木造２階建、ガルバリウム鋼板葺き延床面積２６１.９０㎡、着工は５月２８日、８月末の完成となった。

借入先は第三銀行、期間１０年。

この本部棟の正式名称を医療法人研医会グループ本部とし、田辺中央病院、田辺すみれ苑、野洲すみれ苑、田辺すみれハイムの共通の本部として、事務作業の効率化と各施設の連携を図る機能を有する部署として９月より業務を開始した。

また、本部職員として、田辺すみれ苑より１名、平成２７年２月には２名を新規に採用し、本部体制の人員面での充実を図った。

この施設にはこの他に、理事長室、地域連携室、会議室、応接室、更衣室の一部を移転した。

病院本体の業務としては、４階の医療療養病棟が回復期リハビリ病棟となり１０月に始動しそれに伴い職員の増員をかけ、理学療法士４名の入職と看護師・准看護士合わせて１８名の入職となった。

また職員増員に関しては、本年度もアイビーメディカル様による就職説明会をビッグＵ

にて行い、看護師、理学療法士、田辺すみれハイムの介護職員とあわせて２０名の採用が決定した。

１１月には今年も恒例となった看護フェアを開催し、金本医師による講演と今回は白浜町の関守住職を講師に迎え、癒しをテーマに音楽法話を行って頂いた。

１部と２部の講演の間には院長と看護師による健康相談と健康測定を行い約３００名近くを集客した。

病院業務内容の変化として、１０月に４階病棟の医療療養病棟から回復期病棟に変更となり、それに合わせた勤務体制を組織する。

また田辺すみれハイム開設後は、医師による訪問診療、看護師による訪問看護、セラピストによる訪問リハビリと在宅医療に向けての取り組みが始まった年となった。

Ⅴ　人事関係

本年度の入退職の動向として、回復期病棟への転換に伴い、看護師と理学療法士の増員を図り、業者紹介も含め看護師・准看護士が１８名、理学療法士４名が採用となった。

しかし本年度は看護師の離職者が１４名と多くなった為、課題の残す結果となった。

この問題を踏まえ、看護師の離職率を抑えるための方策として、職員の現状意識を把握するために、先ず、職員満足度の調査を開始、それぞれの問題について、月１回の対策会議を開き、対応策を検討することとして３月より開始した。

また、同時に看護補助者のパート職から正社員化を検討し、勤務３年以上の常勤職員に対応することに決定、４月より実行となった。

本年度も例年どおり看護学校や専門学校の就職説明会へ参加しましたが、採用には至らず、田辺市の地域環境を考慮に入れた今後の対応策を根本的に見直すことが必要かと考え、次年度は田辺市周辺地域以外からの入職者に対応できる、対策の見直しを検討したいと考えます。

本年度も７月に紀陽リースキャピタル様による接遇マナー研修を実施、より具体的な事例を基に２時間の研修となった。

また昨今増加しているメンタルヘルスの問題に対応すべく、担当労務士と、田辺すみれ苑担当、田辺すみれハイム担当者とで心の健康づくり推進計画を作成し、同時に職場復帰プログラムと職場復帰フローチャートを作成、また、職員向けの相談箱を置き、悩み相談へのきっかけ作りを開始した。

９月より本部として、すみれ苑、すみれハイムと合同として求人広告や入職者の調整を行うことになりました。各施設共通の問題として今後、効率的な誘導、調整ができるよう飽くまで公平な立場で行動したいと考えます。

Ⅵ　次年度に向けて

職員の離職率を下げる対策として考えなければならないのが、職場環境の整備があります。その職場環境・労働環境のなかには、建物設備、備品等のハードなものと職場の人間関係や労働条件等のソフトの部分とに分かれると思います。

離職を考える大きな要因としては、そのソフトの部分が大きな原因であると考えます。

今年度は初めての職場満足度調査を実施しました。その調査結果を踏まえ、今後少しずつでも改善できればと考え様々な対策を講じて行きたいと思います。

また、職員の意識向上やコミュニケーション能力向上の為に継続的な接遇研修や各種の勉強会を次年度に向けて多く実施していきたいと考えます。

職員の伝達能力、協調性、目的意識の共有は結果的には職場環境の改善に繋がる要素になりうると考えられるからです。

１人１人がお互いを盛り立て合い、自分たちの職場環境を構築する“積極的な気遣い”が出来るようになればとの思いがあります。

つぎに、本年度より、田辺中央病院、田辺すみれ苑、田辺すみれハイムの三本柱で医療と福祉を地域に展開することになりました。

病院にとっても継続的に診れるというメリットがそれゆえ患者様にとっても安心感につながる要素となっていると思います。

この連携を今後も密に、またより効率的な運営が出来るように切磋琢磨して行かなければならないことと、職員間においては、連携というより、すでに“一体化”しているとの意識が必要と考えます。地域医療・福祉への貢献という共通意識が、この三本柱の要であり、目指すべき目標となるよう次年度に繋げていかなければなりません。

今後、医療・福祉における問題は年々変化していくと思います。その変化に自在に対応できる体力と能力を備えるべく日々実績を積んでいくことが今しなければいけない最大のことと考えたいと思います。

【就職フェア等参加】

4月16日	県立なぎ看護学校就職説明会
4月25日	和歌山看護専門学校病院説明会
5月7日	県立高等看護学院就職説明会
5月25日	和歌山県薬剤師就職説明会
7月6日	福祉・介護のしごとフェア
8月2日	関西医療大学就職説明会
8月5日	福祉・介護・保育の就職フェアわかやま
8月8日	関西総合リハビリテーション専門学校
1月29日	田辺地域企業合同面談会
2月1日	福祉・介護のしごとフェア

【平成26年度 職員表彰者】

主催機関	表彰名	職種	氏名
田辺市救急医療週間推進協議会	救急医療功労者表彰	准看護師	植本進
田辺中央病院	永年勤続表彰（10年）	看護師	田中芳代子
〃	〃	看護師	松本　知与
〃	〃	看護補助者	谷本真由美
〃	〃	看護補助者	三栖　礼子
〃	〃	看護助手	橋本千賀子
〃	〃	調理補助者	小坂佳菜子
〃	〃	調理補助者	井川　五月
〃	〃	医師	伊東　了
〃	永年勤続表彰（20年）	准看護師	植本　進

【平成26年度 購入備品明細】

4月	−	−
5月	−	−
6月	厨房　ガス給湯器	厨房
7月	−	−
8月	フジフイルムIPカセッテ	放射線科
	血圧計テルモ	3階病棟
9月	3連スクリーン	6階機能訓練室
	高齢者用ミニキッチン	リハビリテーション科
	監視カメラ一式	新棟
10月	ポータブルトイレ	3階病棟
11月	離床センサーマット	3階病棟
12月	−	−
1月	レジスタンスチェア	リハビリテーション科
	ショルダーストレッチャー	リハビリテーション科
	ポータブルマルチバイク	リハビリテーション科
2月	血管ポンプSCD700	手術室
3月	歩行器	3階病棟
	SPO2モニター	リハビリテーション科
	ノートPC	検査科
	ノートPC	中央材料室
	カルテ保管用ワゴン	受付

【平成26年度 修繕明細】

	内　容	場　所
4月	換気扇交換	検査科
	浄化槽原水槽チェッカープレート（鉄板交換）	浄化槽
5月	浄化槽ポンプ故障	浄化槽
6月	エアコン修理	5階ナースステーション
7月	シンク老朽破損	栄養課
8月	浄化槽細めスクリーン破損	浄化槽
11月	一般用エレベーター故障	本館
	地下室水漏れ	地下室倉庫
1月	給湯器水漏れ	栄養課
3月	火災報知器誤作動　熱感知器交換	3階病棟

【コピー機使用料比較表】

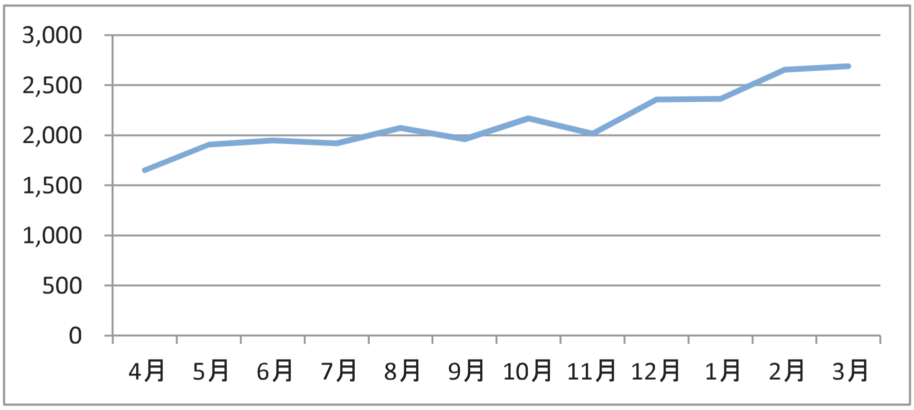
H26年度	設置場所				合計	消費税	税込合計	H25年度合計額
	事務所		6F → 新棟					
	カラー	モノクロ	カラー	モノクロ				
（単価）	10.5円	1円	19円	2円				
4月	50,519	10,280	18,962	7,240	87,001	6,960	93,961	66,187
5月	25,742	6,184	34,656	8,318	74,900	5,992	80,892	73,318
6月	28,623	10,961	13,528	14,062	67,174	5,374	72,548	43,349
7月	24,402	8,576	21,185	5,168	59,331	4,746	64,077	123,216
8月	25,578	7,636	50,521	17,560	101,295	8,104	109,399	70,481
9月	37,705	10,330	11,248	4,430	63,713	5,097	68,810	80,765
10月	30,828	9,779	4,180	5,044	49,831	3,986	53,817	64,890
11月	31,857	8,206	7,372	4,246	51,681	4,134	55,815	90,201
12月	34,923	9,110	7,315	3,498	54,846	4,388	59,234	64,169
1月	19,981	9,981	3,173	2,842	35,977	2,878	38,855	45,424
2月	16,159	7,341	7,828	1,159	32,487	2,599	35,086	56,238
3月	5,738	8,850	7,195	18,690	40,473	3,238	43,711	161,880
合計	332,055	107,234	187,163	92,257	718,709	57,496	776,205	940,118
月平均	27,671	8,936	15,597	7,688	59,892	4,791	64,684	78,343

【購入図書一覧】

4月	肩　その機能と臨床	リハビリテーション科
5月	検査と適応疾患	医事課
	薬効・薬価26年度版	薬局
	看護必要度	看護部
7月	点数表の解釈	医事課
	介護報酬の解釈	〃
	介護報酬の解釈	〃
9月	ベッドサイドの神経の診方	リハビリテーション科
12月	疾患別看護過程	看護部
	夜間の急変その対応とDrコール	〃
1月	今日の治療薬	外来

【病院ホームページ月別訪問者数】

4月	1,651
5月	1,907
6月	1,946
7月	1,920
8月	2,071
9月	1,959
10月	2,167
11月	2,015
12月	2,355
1月	2,364
2月	2,653
3月	2,690



◆平成２６年度　ＨＰ更新状況

【新規サイトの立ち上げ】

- 人工関節センター　サイト
- リハビリテーション　学会・研修報告サイトの追加

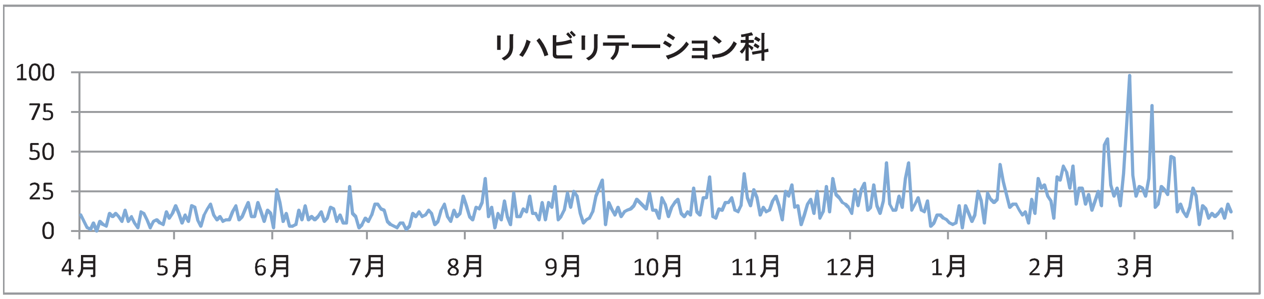
【サイト更新】

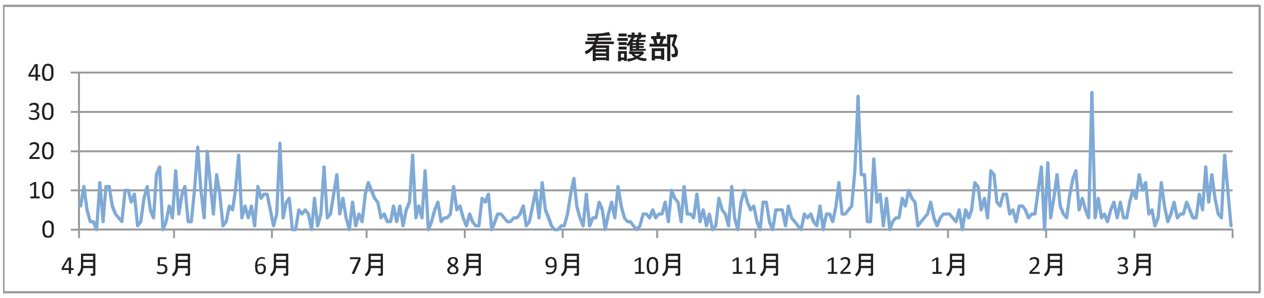
- 広報誌の定期掲載
- 看護部サイトのページ追加
- 平成２５年度年報

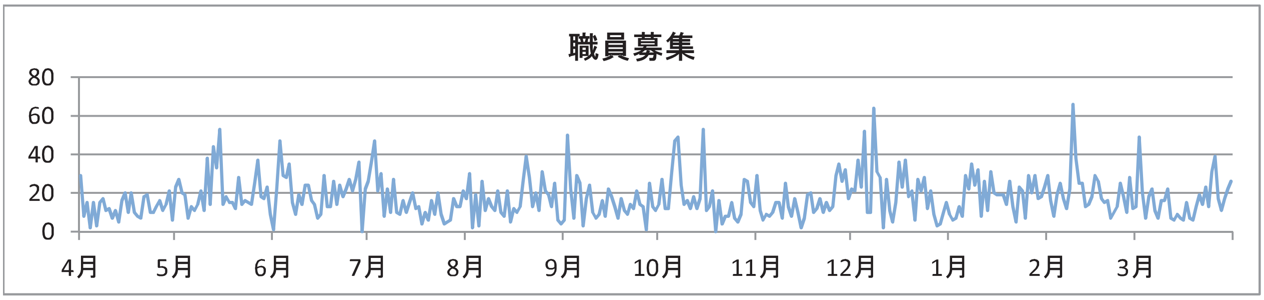
◆アクセス数推移

１２月くらいからアクセス数が増加。
以下のカテゴリが増加しているサイトとなります。

・リハビリテーション科　　・看護部　　・職員募集



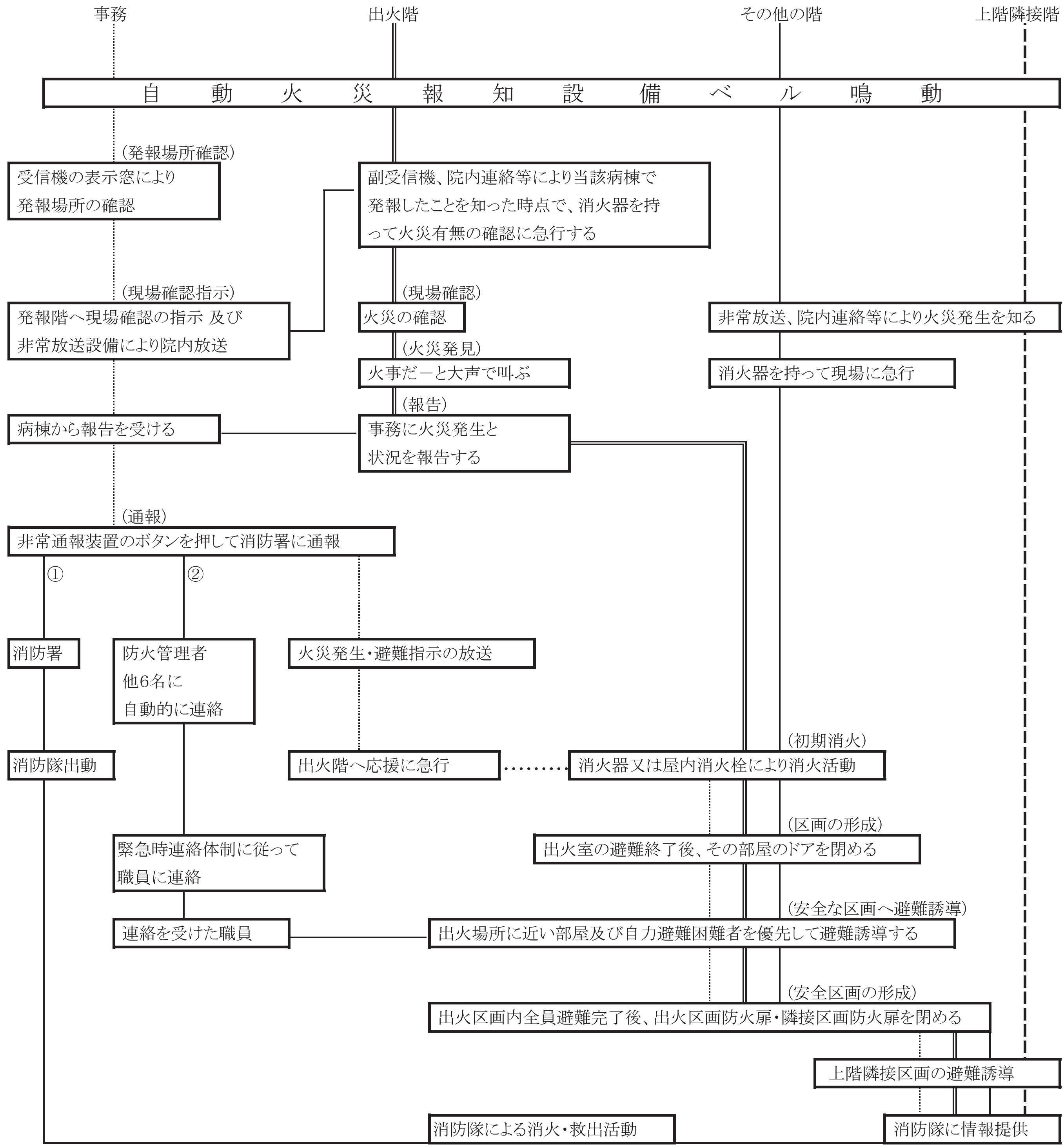




【防災関係】

（防火・防災訓練等）

平成２６年　７月１８日　：　５階病棟５５２号室を出火場所と想定して防火訓練を実施。
平成２６年１１月２７日　：　４階病棟４５６号室を出火場所と想定して防火訓練を実施。
〃　：　紀伊半島沖を震源とする巨大地震が発生し大津波警報が発表されたと想定して、津波避難訓練を実施。
〃　：　田辺消防署立ち入り検査実施。　※指摘事項無し
平成２７年　１月１８日　：　田辺地域災害医療訓練に参加。

◎地震発生時、揺れている間は自身を守る行動をとる。（頭部の保護等）
揺れがおさまったらすぐに火の元のチェックと火災発生有無の確認。
通路を確保（障害物の除去やドアの開放）して在院者をできるだけ高い階へ避難誘導する。

火災発生時の対応